

かねてから私は、旅行の態度、旧街道筋の宿場として保存されている町並を見るのを楽しみにしている。

過日、徳島県は脇町を訪ねた。

ここは、江戸時代から藍の産地として知られ、栄えた町である。この町には「うだつ通り」という町並を復元して保存している。

時 評

「うだつ」とは、御承知の人も多いと思うが、「建築物の外にはり出した防火の用に備える壁」(広辞苑)、とある。簡単に、現代風にいうと防火壁のことであり、「うだち」ともいう。漢字では「卯建」という文字を当てている。

うだつが上がらない、という言葉がある。せめて一生のうちうだつの上があった家を建てることのできる出世をしたいものだ、というのが庶民の願望であり目標であったという。

脇町の「うだつ通り」はさすがに立派な、うだつの上があった建物が棟を述べている。

さて、いささか話は横道にそれるが、この、町並の一

駅 通 情 報

第9号

角に郵便創業時の書状集箱が建てられている。私は疑問、当時のものをそのまま復元したのかと思ひ、早速、カメラに収めた。しかし、よく見ると金属製であり、しかも、ツヤ消しなのは、正面に「マ〇の〇」とあって、折角の時代史の史料も、これでは台無しである。「いわずもがな」という言葉があるが、いらぬことを入れたものである。

郵便ポストは、正式には郵便差出箱であるが、創業時には、「集信函・書状集箱・書状集メ箱・郵便箱」といふ統一的名称はなかった。

目 次

一 時 評	1
二 特殊な形態の駅通を探る	2
三 三崎山街道の一里塚と 札幌本道の里程標杭を比較する	3
四 事務局便り	4

特殊な形態の駅通を探る

法制上幻の施設「林泊所・出張所」(下の二)

第八号に続いて、全道の出張所について記述する。

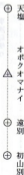
(五) 遠別駅通所オボクオマナイ出張所

駅通名	種別	開設年月	廃止年月	取 扱 人
遠別 野幌車庫(通一〇・四)		大正一五・七		奥出集
出張所名	種別	開設年月	廃止年月	取 扱 人
オボクオマナイ出張所(通五・一)		大正七・二		オボクオマナイ出張所(通五・一)の資料もあつた。

西日本海路北部の、遠別・天塩間四里三十四町の中間点で、遠別駅通所から北方二里の地点にある。

この街道は、江戸時代に開削されたがその後整備は進まず、野宿を要する場所が多かった。増毛山道を抜けると比較的平坦ではあるが、海浜のザヤリ道が続く。吉束から、多くの幕府、松前藩の要人が通行したわりには開発が遅れた地域である。

同出張所は大正七年十二月、親・駅通所の遠別に合併吸収された。出張所営業期間中は、親・駅通所から距離離のせいもあって、宿泊・休憩業務のみ行われ、總立業務は遠別駅通所に依存していた様子であるが、この点、資料は見当たらない。



(六) 鹿野駅通所山道沢出張所

駅通名	種別	開設年月	廃止年月	取 扱 人
鹿野 野幌車庫(通一八・四)		大正一一・四		①本稿 ②本稿本文参照
出張所名	種別	開設年月	廃止年月	取 扱 人
山道沢出張所(通八・三)		大正 三・八		山道沢出張所として開設されたが、山道沢出張所として廃止された。

日高・十勝間を結ぶ路線のうち、幌泉・猿留間には本街道と脇往還の二路線がある。山道沢出張所は山道沿いの脇往還側に所在する。

奥地には、道東の広大な地域が控えていて、江戸時代以来、交通上重要な経路となっていた。山道沢は脇往還沿いで、しかも出張所ではあるが、重要な宿駅としての施設を備え役割を担ってきた。出張所の名称も、山道沢と名付けられているように、海側の本道に対して山道側に所在する。

出張所として公表されている施設としては、駅通制度施行中最初のものである。



七飯町の松並木と思われる。これ以上のことは記述されておらず、楢樹の本数、植付け時の状況等、詳細は明らかでない。

街道筋の並木としては、これが、北海道における唯一のものであろう。しかし、短区間の並木は、まだこのほか二、三見受けられるが、本誌では札幌本道の標杭、すなわち、一里塚について記述するのが本旨なので、さきを急ぐことにしたい。

北海道道路史によると、明治五年十月、大政官達第三二五号道路掃除命令第五条に「掃除丁場標杭往々等間ニ敷シ置候向モ有エ右ハ必ズ其請持丁場境ニ従是東或ハ南北何百何十何丁何郡何村掃除丁場ト誌シ標杭何相建事」とあって、道路には里程標杭を建てること、と定められている。また、さらに翌六年十二月、大政官布達四一三号には、「○各駅及郵便役所或ハ陸運会社有之村市ハ高札掲示場等其肝要ニシテ便宜ノ地ヘ里程標杭可相建事、○前二掲ル元標及標柱ハ大蔵省ヨリ達ノ日ヲ以テ可相建事、但其迄ノ間ハ仮杭取建置可事(以下略)」(以上の史料は、石井宏道氏提供による)、とあって、全国の道路には元標と標杭(標柱)を建てることになっている。

ここでいう里程標杭(又は標柱)とは、従来の「一里塚」に代るべきもので、これを規定付けたものである。

(以下次号)

事務局たより

一 史料寄贈お礼

○標基町郷土館報告第十号

標基町郷土館

○三河路の旅

安保 秀勝氏

○往時の白老駅通について

高田 寅雄氏

(北海道毎日新聞)

二 駅通に関する調査依頼

○パンケシントク駅通開設とその後の状況

秋山 秀敏氏

○白老駅通の開設とその後の状況

高田 寅雄氏

発行年月日 平成十年五月一日

頒布 無料

発行者 札幌市南区川沿西条五丁目三ノ一

史学研究会代表 宇川 隆雄

電話 011-571-3602